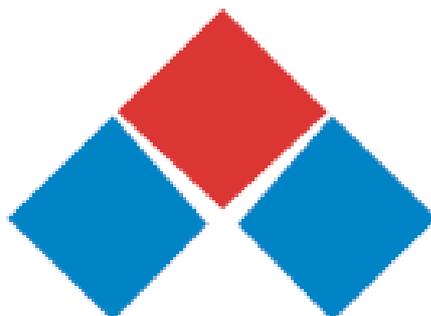


# 環境レポート

平成28年度(2016)

---

レポート報告期間:平成27年9月1日～平成28年8月31日



**Suzuyo**

鈴与建設

環境安全管理室

---

# 環境レポート『2016』

## ● 国内トピックス

2016年5月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出量を80%削減する長期目標などを示した「地球温暖化対策計画」を閣議決定しました。パリ協定で表明した日本の削減約束を確実に推進していくための部門別の削減目標や具体的な施策が盛り込まれています。

日本の温室効果ガス排出量の9割を占めるとされるエネルギー起源二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)については、部門ごと2030年における排出量を次のように試算しています。

各部門の2013年度の目安は、工場などの「産業部門」が4億2900万トンに対し4億100万トン(6.5%減)、オフィスや店舗などの「業務その他部門」は、2億7900万トンに対し1億6800万トン(39.8%減)、「家庭部門」は、2億100万トンに対し1億2200万トン(39.3%減)、「運輸部門」は、2億2500万トンに対し1億6300万トン(27.6%減)、発電所などの「エネルギー転換部門」は1億100万トンに対し7300万トン(27.7%減)としています。

企業と家庭部門の削減目標は約4割と大きく、運輸部門や発電所も約3割、対策が比較的進んでいるとされる工場なども取り組みの上積みが求められています。

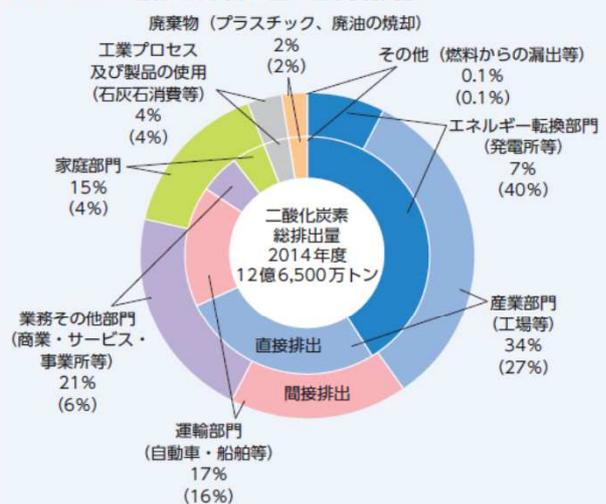
そうした目標を達成するために、徹底した省エネ対策、再生可能エネルギーの積極導入、革新的な技術開発の促進、火力発電所の高効率化や安全性が確認された原子力発電の活用などが明記されています。

2016年4月、環境省と国立環境研究所は2014年度の国内の温室効果ガス排出量の確報値を発表しました。総排出量は、前年度に比べて3.1%(4400万トン)少ない13億6400万トンとなり、排出量が前年度比で減少した要因には、冷夏や暖冬の影響で冷暖房の需要が減少したことや省エネの浸透で電力の消費が低く抑えられたことがあげられています。その他再生可能エネルギーの導入拡大や火力発電所の高効率化などで、発電での温室効果ガス排出量が減ったことが影響しています。また、森林対策による温室効果ガスの吸収量は4990万トン、農地管理・牧草地管理・都市緑化活動による吸収量は800万トンで、合計は5790万トンになり、これは、排出量から差し引いて計算されています。

弊社も、微力ながら地球温暖化に伴う、温室効果ガスの発生量の削減に努めています。内容は、静岡県が推進する、「平成27年度 産廃3Rキャンペーン」の計画目標を達成した「産廃トップランナー」として、静岡県のホームページで実績を公表されました。これは、各建設現場において廃棄物の発生抑制・減量化、再生利用の促進に関して工夫を図り、地球温暖化防止活動や環境配慮型の工事の取り組みの結果として、総合的に温室効果ガスの削減にも繋げています。詳細は、「環境パフォーマンス」に示しています。

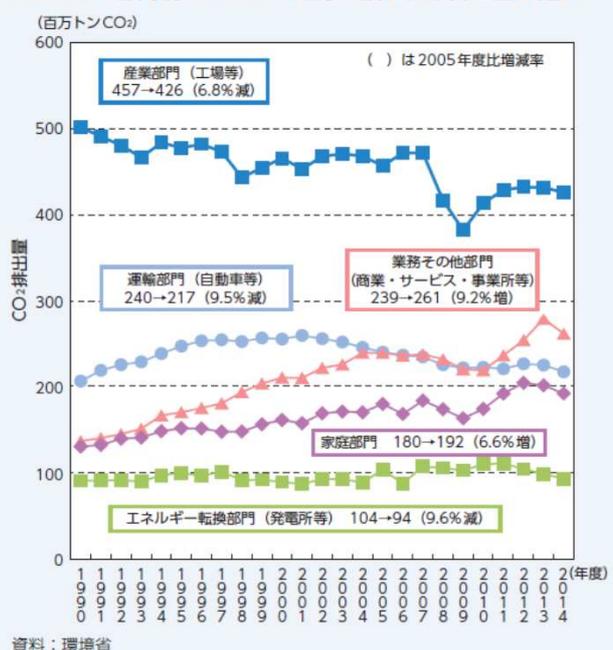
### 温室効果ガスの内、二酸化炭素の排出量を下記に示す

図1-1-5 二酸化炭素排出量の部門別内訳



注1: 内側の円は各部門の直接の排出量の割合 (下段カッコ内の数字) を、また、外側の円は電気事業者の発電に伴う排出量及び熱供給事業者の熱発生に伴う排出量を電力消費量及び熱消費量に応じて最終需要部門に配分した後の割合 (上段の数字) を、それぞれ示している  
 2: 統計誤差、四捨五入等のため、排出量割合の合計は必ずしも100%にならないことがある  
 資料: 環境省

図1-1-6 部門別エネルギー起源二酸化炭素排出量の推移



● 社内トピックス

平成28年度 社長表彰 優秀賞

沼津情報・ビジネス専門学校移転新校舎建設工事

発注者: 学校法人 静岡理工科大学

工期: 平成27年2月1日～平成28年3月1日

沼津駅の南側の立地で、デザイン建築への取り組みとして、設計の仕上げに関するこだわりを施工として表現し、具体的な形で対応して評価を得た。お客様からの要望にも対応し、見学会等をスムーズに運営することで、学生増に貢献した。



## 平成 27 年度産廃3Rキャンペーン実績の公表

静岡県では、循環型社会の形成を目指して、産業廃棄物の削減目標を設定し、産業廃棄物の3Rに積極的に取り組む事業者を支援する「産廃3Rキャンペーン」を行っています。平成27年度の実績をとりまとめたので、その結果を公表します。

### ▼目標達成事業者の公表

産廃3Rキャンペーンに応募いただいた事業者のうち、平成27年度に計画目標を達成した「産廃トップランナー」を紹介します！

#### ▽排出部門

事業者名
ヤマハファインテック株式会社
矢崎部品株式会社 牧之原工場 鷺津分工場
株式会社エフ・シー・シー
NECフラットフォームズ株式会社 掛川事業所
鈴与建設株式会社
メルクパフォーマンスマテリアルスマニファクチャリング合同会社

#### ▽最終処分部門

事業者名
ヤマハファインテック株式会社
大興製紙株式会社
メルクパフォーマンスマテリアルスマニファクチャリング合同会社

#### ▽削減活動の代表例

- ・ 分別の徹底 ・ 工程、仕様の見直し ・ 廃棄物の有価物化促進
- ・ 再利用や通い箱化等の変更による梱包材の削減 ・ 定期教育の実施
- ・ ゼロエミッション（廃棄物をゼロにすること）の継続 など

産廃3Rキャンペーンは、平成28年度も継続して行う予定です。ぜひ、御参加ください。削減活動の代表例を参考に、トップランナーに追いつきましょう！

#### <問合せ・申込み先>

静岡県廃棄物リサイクル課 資源循環班  
 電話 054-221-2137 FAX054-221-3553  
 E-mail : hai@pref.shizuoka.lg.jp



● 環境パフォーマンス

環境負荷・環境影響の状況一覧表

環境パフォーマンス一覧表

事業の規模

活動規模	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考
当社年度完工高	千万円	1,900	2,120	2,078	2,000	2,500	2,950	年度事業計画レビュー
公共年度完工高	千万円	1,652	1,726	1,532	2,033	1,568	—	完成工事実績
従業員	人	191	191	188	193	211	220	4/1派遣社員含む
事業所延床面積	m <sup>2</sup>	2,467	2,467	2,467	2,467	2,467	2,467	

環境への負荷の状況（取りまとめ表）

当社年度	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考	
(1) 総エネルギー投入量	購入電力	GJ	6,823	7,052	7,225	9,037	8,855	9,280	省エネ法に基づく電気及び各燃料等の使用量を把握するため熱量換算係数(ジュール)により算出。ある抵抗に電流を流すと必ず発熱します。この熱をジュール熱といいますが、GJは、仕事量、熱量及び電力量の単位、ジュールの10 <sup>9</sup> 倍
	化石燃料		13,124	13,321	13,296	16,040	13,093	8,972	
	新エネルギー		0	0	0	0	0	0	
	計		19,947	20,373	20,521	25,077	21,948	18,252	
(2) エネルギー使用量	原油換算	KL	514	525	529	646	566	471	KLは、電気・ガソリン・重油・ガスなど、異なるエネルギーや燃料を共通の単位を用いて合計・比較
	省エネ法1,500KL以上は「特定事業者」の指定対象								
(3) 温室効果ガス排出量	総排出量	t-CO <sub>2</sub>	1,219.0	1,246.0	1,283.0	1,568.0	1,355.0	1,092.2	事業活動に伴う温室効果ガスの排出量を二酸化炭素の重量に換算。平成28年度目標総排出量の削減：0.60 t-CO <sub>2</sub> /千万円
	完成工事高換算	t-CO <sub>2</sub> /千万円	0.64	0.59	0.62	0.78	0.54	0.37	
	オフィス活動等	t-CO <sub>2</sub> /				470/0.24	451/0.18	475/0.16	
	個別工事施工段階	t-CO <sub>2</sub> /千万円				1,098/0.55	904/0.36	617/0.21	
(4) 電力使用量	本社・支店等	千kw	277.0	234.5	217.8	200.9	193.1	195.7	平成26年度を基準として、完工高当たり排出量を平成30年度までに3%削減する オフィス：0.23 t-CO <sub>2</sub> /千万円 個別工事：0.54 t-CO <sub>2</sub> /千万円
	全現場		407.4	474.1	520.1	705.5	888.2	735.1	
(5) 水資源投入量	本社・支店等	m <sup>3</sup>	1,219	1,326	1,352	1,115	1,108	1,055	地域への影響が大きい項目として数値を把握（水道水の使用量）
	全現場		11,218	14,811	8,772	17,831	12,962	7,702	
	計		12,437	16,137	10,124	18,946	14,070	8,757	
公共年度	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
(6) 産業廃棄物排出量	再生利用	t	47,459	46,359	44,303	25,848	27,175	持続可能な循環型社会の構築を図る	
	単純焼却		0	0	0	0			
	その他								
	最終処分量		1,713	197	1	190	232		
	計		49,172	46,556	44,304	26,038	27,406		
完成工事高換算	t/千万円	29.8	27.0	28.9	12.8	17.5			

(1) 各事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取り組み

1) 地球温暖化対策

◆省エネ法による年間のエネルギー使用量(原油換算値)の合計が下記のとおり、1,500KL未満で特定事業者の指定としては、対象外となっています。

① 総エネルギー投入量

熱量換算係数(J)により算出

・省エネ法に基づく電気及び各燃料等の使用量を把握するため熱量換算係数(J:ジュール)により算出しています。

基準年度(平成23年度) : 19,947 GJ

平成28年度 実績 : 18,252 GJ

基準年度値に対する増減 : 1,695 GJ の減少

② エネルギー使用量

原油換算(KL:キロリットル)により算出

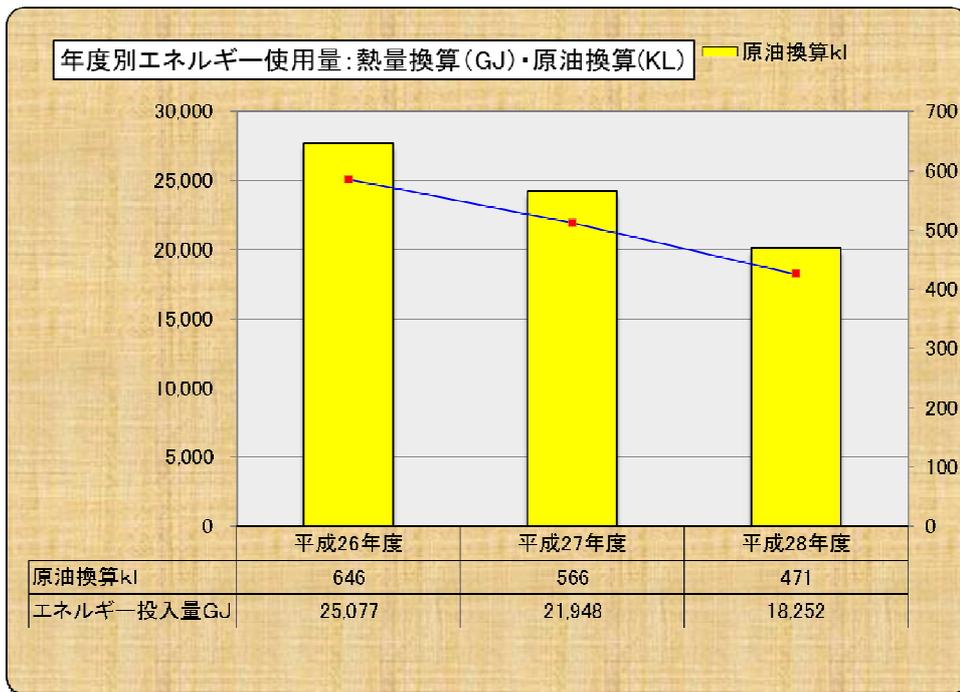
・KLは、電気・ガソリン・重油・ガスなど、異なるエネルギーや燃料を共通の単位を用いて合計・比較しています。

基準年度(平成23年度) : 514 KL

平成28年度 実績 : 471 KL

基準年度値に対する増減 : 43 KLの減少

## 2) 年度別 原油換算及びエネルギー使用量の比較(過去3年)



省エネ法1,500kl以上は、「特定事業者」の指定対象となるが、当社は該当しない。

### ● 環境保全活動報告

環境方針を受け、平成28年度の全社環境目的・目標を設定して取り組んできました。基準年度の目標値に対する活動結果は下表のとおりとなりました。この結果の内容を分析し、平成29年度の目標と活動項目を修正した上で活動を継続していきます。

#### (2) 平成28年度 温室効果ガスの排出量に対する実績

##### 1) 地球温暖化防止・省エネルギーによる二酸化炭素排出量(t-CO<sub>2</sub>)の実績

全社CO<sub>2</sub>の総排出量の削減目標 : 1,552 t-CO<sub>2</sub>/年(基準年度「26年度」の1%削減)

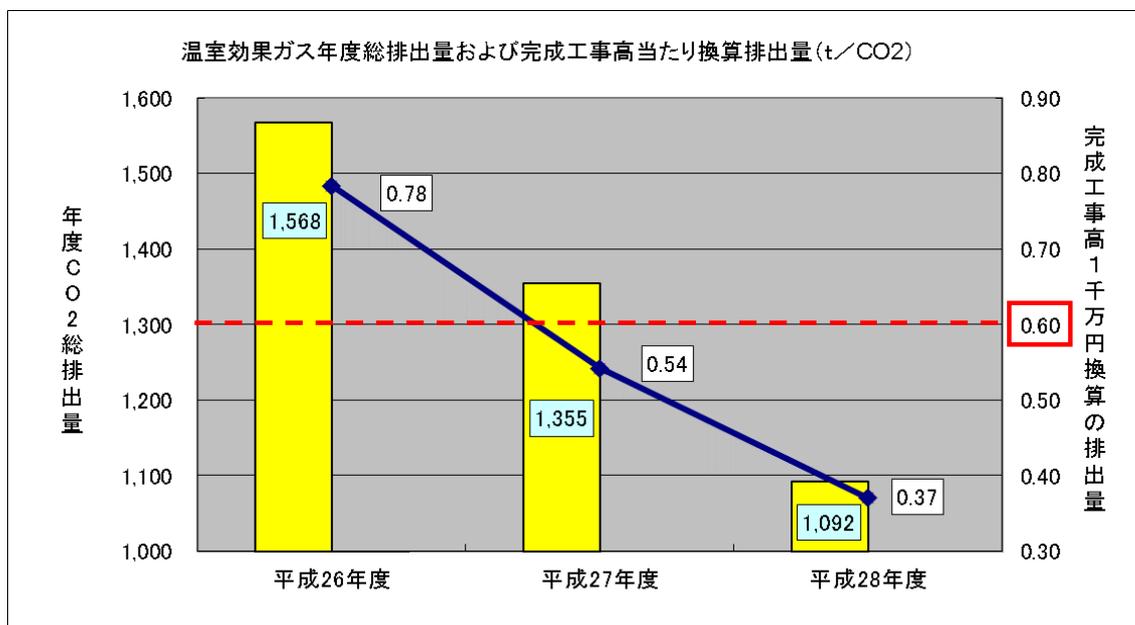
平成28年度 排出量実績 : 1,092 t-CO<sub>2</sub>/年 達成

内訳 ①本社、支店、ガソリン等 474.5 t-CO<sub>2</sub>

②個別工事 燃料費含む 617.7 t-CO<sub>2</sub>

個別工事 完工高(千万円)当たり目標 : 0.60 t-CO<sub>2</sub>/千万円

平成28年度 排出量実績 : 0.37 t-CO<sub>2</sub>/千万円 達成



2) 平成28年度の目標 オフィス活動と個別工事施工段階の管理

① オフィス活動(本社・支店・営業所等)

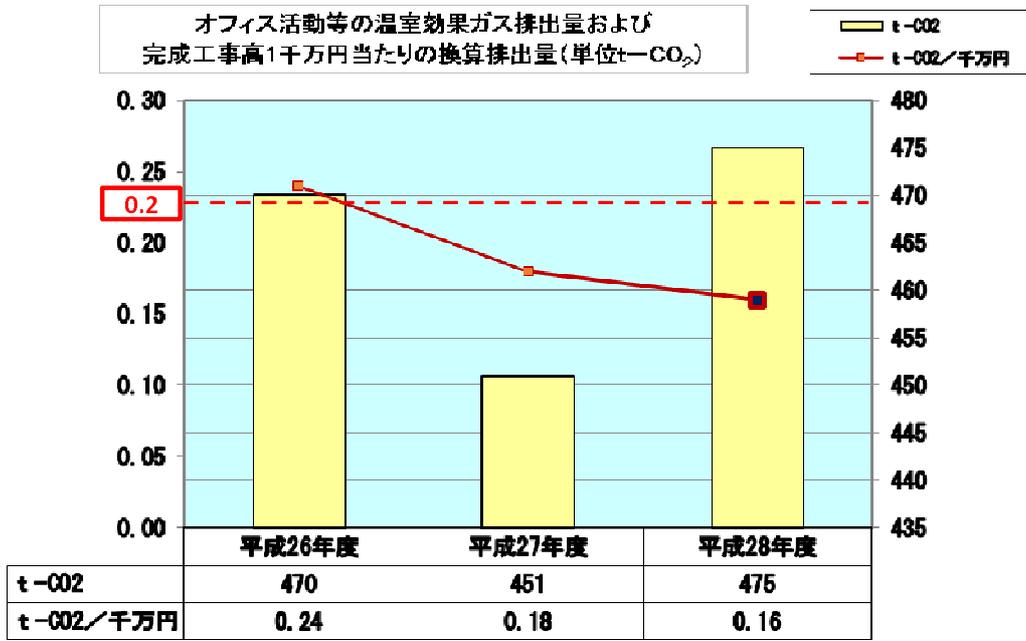
平成26年度を基準年度として、総排出量を平成30年度までに3%削減する。

平成26年度 基準値:470t-CO<sub>2</sub>/年 目標値:465t-CO<sub>2</sub>/年以下

完成工事高1千万円当たり基準値:0.24t-CO<sub>2</sub>/千万円 目標値:0.23t-CO<sub>2</sub>/千万円以下

平成28年度 排出量実績

目標値に対して0.16t-CO<sub>2</sub>/千万円 達成



② 個別工事施工段階

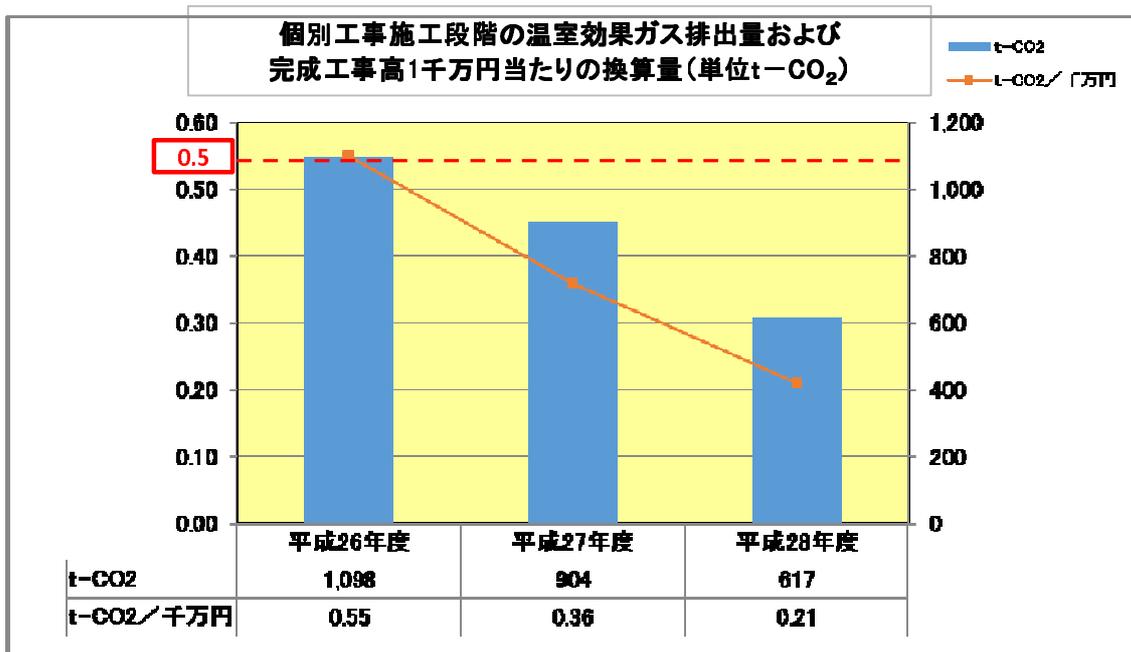
平成26年度を基準年度として、完工高当たり換算(千万円)を平成30年度までに3%削減する。

平成26年度 基準値:1,098t-CO<sub>2</sub>/年 目標値:1,087t-CO<sub>2</sub>/年以下

完成工事高1千万円当たり基準値:0.55t-CO<sub>2</sub>/千万円 目標値:0.54t-CO<sub>2</sub>/千万円以下

平成28年度 排出量実績

目標値に対して0.21t-CO<sub>2</sub>/千万円 達成



(3) 平成28年度 個別工事における環境負荷の実績

1) 個別工事施工段階の年間総電力使用量

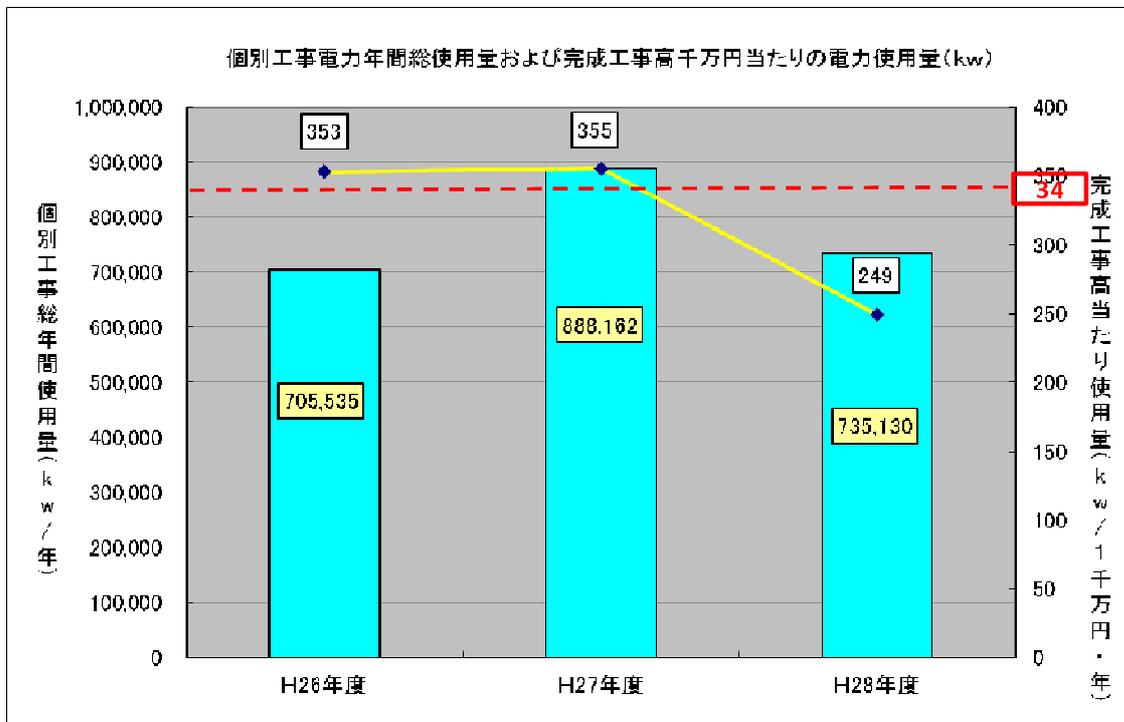
平成26年度を基準年度として、完工高当たり換算(千万円)を平成30年度までに3%削減する。

平成26年度 基準値:705,535kw/年 目標値:698,479kw/年以下

完成工事高1千万円当たり基準値:353kw/千万円 目標値:349kw/千万円以下

[平成28年度 排出量実績](#)

[目標値に対して249kw/千万円 達成](#)

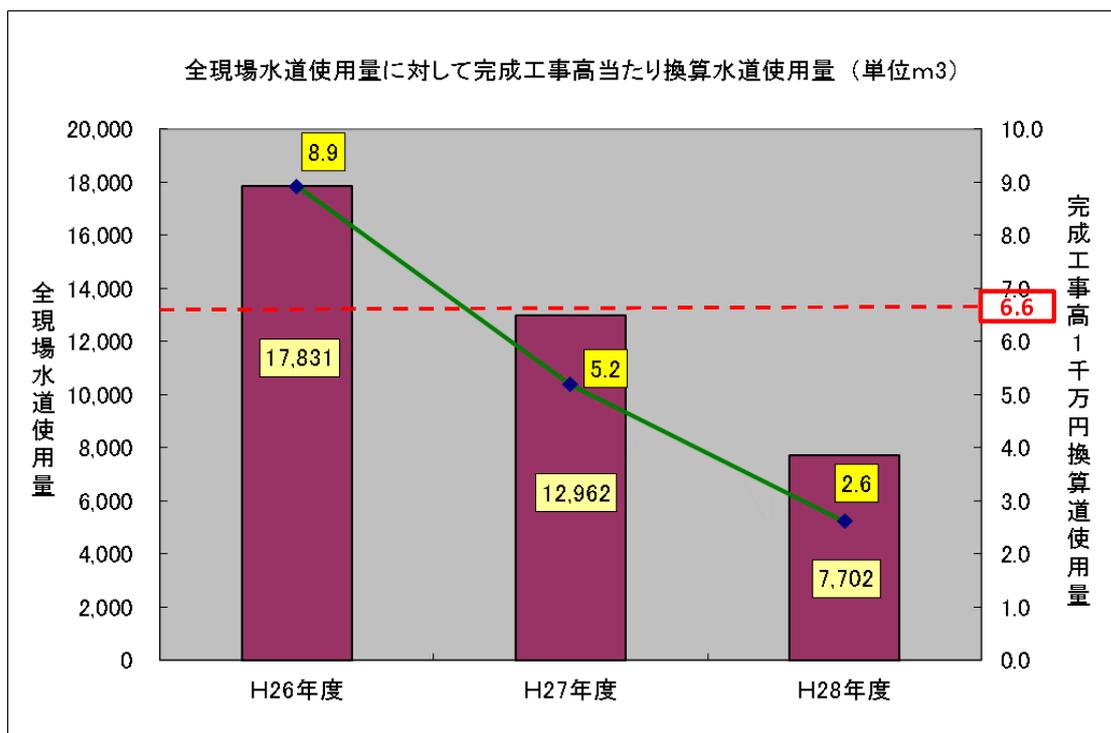


2) 個別工事施工段階の水資源使用量

全現場の水道使用量に対する完成工事高当たり換算使用量の目標値 :6.6m<sup>3</sup>/千万円

[平成28年度 使用量実績](#)

[:2.6m<sup>3</sup>/千万円 達成](#)



### 3) 産業廃棄物総排出量の実績(公共年度)

全社廃棄物排出総量の削減目標値 : 33,576 t

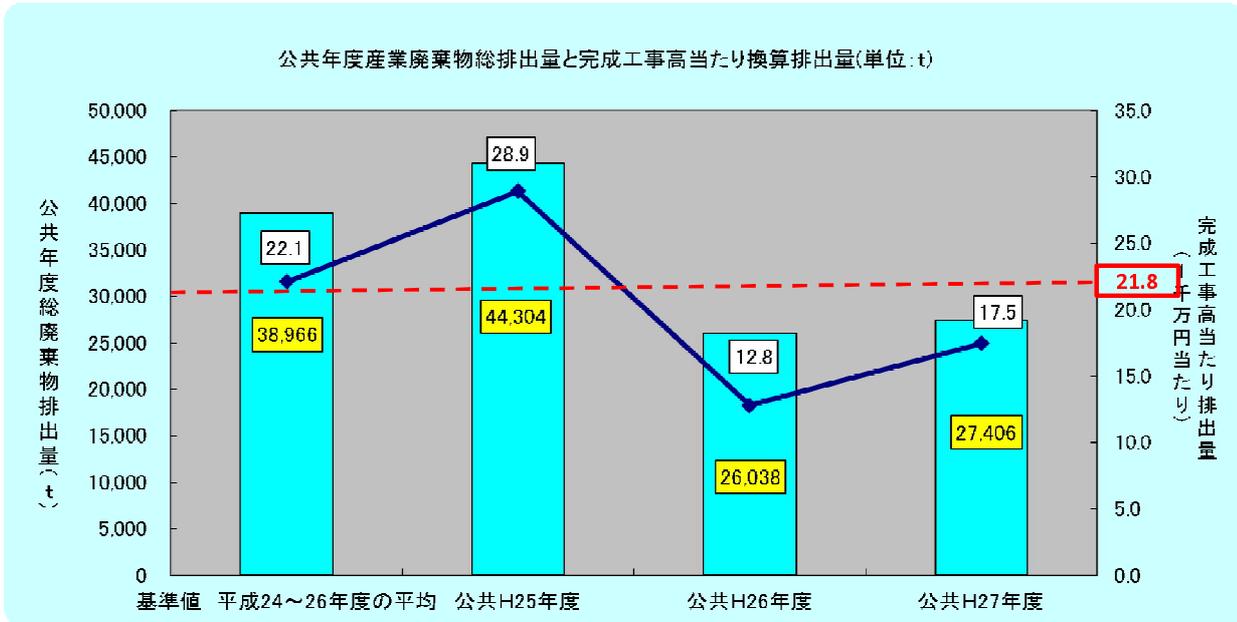
平成27年度 排出量実績 : 27,406 t 達成

内訳 ① 建築工事 18,891t

② 土木工事 8,515t

完工高(千万円)当たり目標 : 21.8 t-CO<sub>2</sub>/千万円

平成26年度 排出量実績 : 17.5 t-CO<sub>2</sub>/千万円 達成



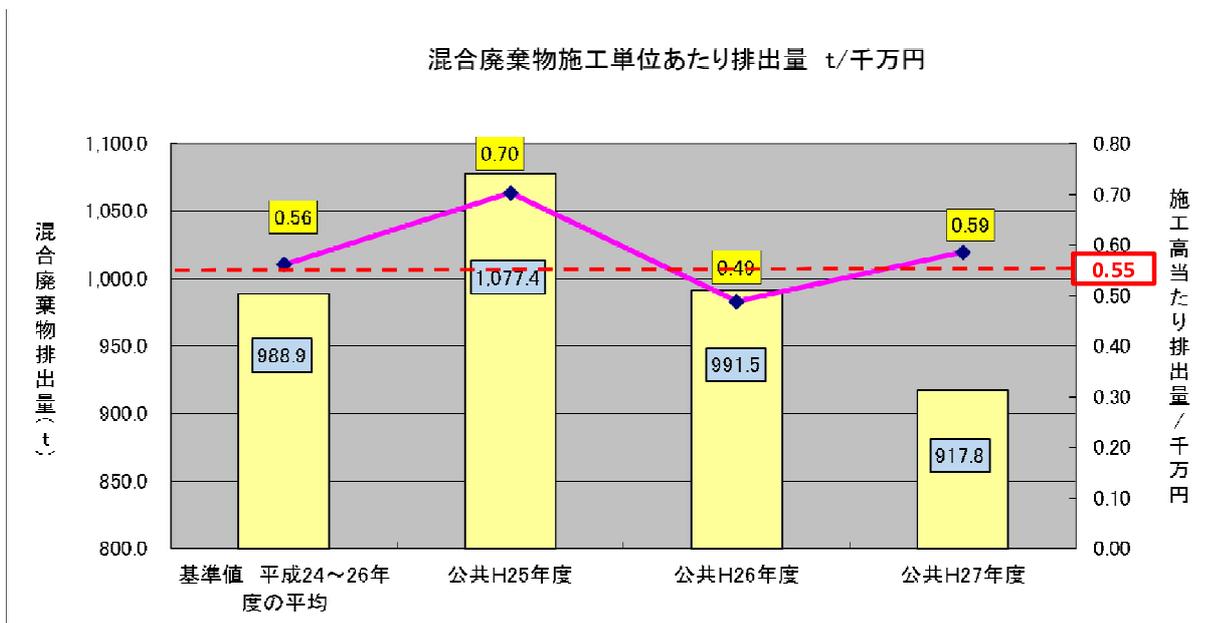
### 2) 平成25年度～平成27年度の混合廃棄物排出量の実績

混合廃棄物排出量の削減目標値 : 979.0 t

平成27年度 排出量実績 : 917.8 t 達成

完工高(千万円)当たり目標 : 0.55 t-CO<sub>2</sub>/千万円

平成27年度 排出量実績 : 0.59 t-CO<sub>2</sub>/千万円 未達

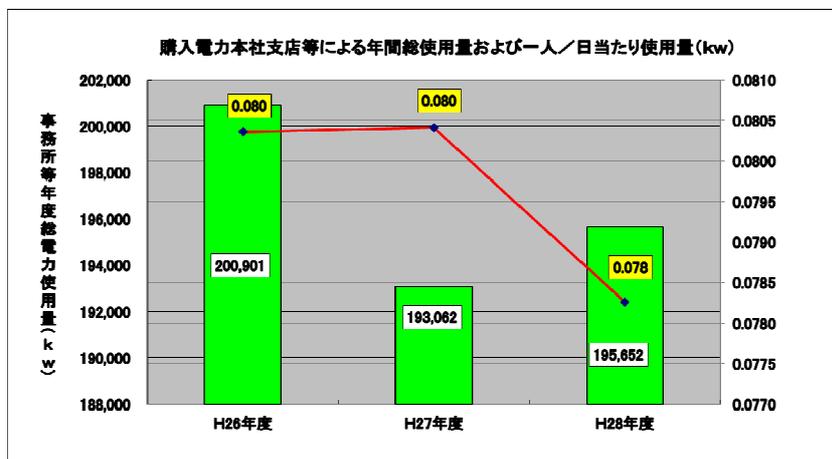


#### (4) 環境保全活動の分析・評価報告

##### 1) 電気使用量について

本社・支店等の年間総使用量は、安定した数値をここ数年確保しています。一人／日の換算電力使用量でも0.08kw／人・日前後と一定の値を示しています。今後は、この数値を維持するよう努めていきます。

個別工事の電力使用量は、大幅に増加しています。これは、個別工事の大型案件の現場事務所の設置等が増加していることが数値を押し上げているものと思われます。個別工事の受注規模や工事内容が異なるため一概には比較できない点ではありますが、年度ごとの完成工事高当たりで評価しています。

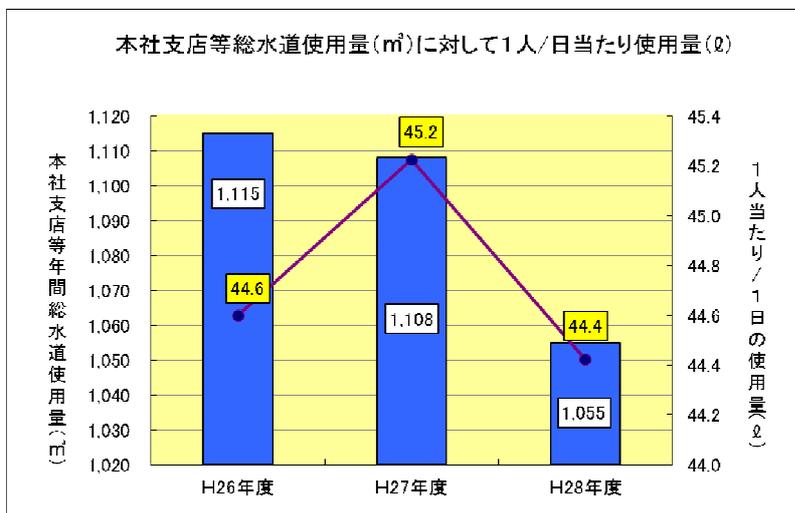


##### 2) 水資源の枯渇について

本社・支店等の年間水道使用量は、安定した数値をここ数年確保しています。一人／日の換算水道使用量は、45m<sup>3</sup>／人・日前後と一定の値を示しています。今後は、この数値を維持するよう努めていきます。

個別工事については、大型案件工事の増加や解体工事の受注量減少に伴い、使用量は大幅に減少しています。ただし、環境保全や地域の苦情軽減を配慮した散水等は、行政の調べで最も苦情の多い「ほこり」に対して、今後も十分に配慮をしていく必要があります。

水については、工事排水、地下水、雨水等を有効利用する仕組みを検討していきたいと思ひます。



##### 3) 産業廃棄物排出量について

産業廃棄物の総排出量は、過去3年間の傾向を見ると減少傾向にあり、完成工事高1千万円当たりの換算排出量は、20.0t/千万円程度の範囲で横ばいを示しています。しかし、混合廃棄物の排出量については、年度によって浮き沈みがあり、3Rの仕組みを整える必要があります。

今後は、優良認定処理業者の有効活用を積極的に行う仕組みをつくり、安心した処理を任せられる業者と委託契約するよう努めていきたいと思ひます。

● 社会貢献活動

間伐材に寄与する取り組み

# ふじのくに森づくり貢献証書

No. 39

平成28年 4 月

鈴与建設株式会社 殿

◆ふじのくに森の町内会「間伐に寄与する紙」による未利用木材搬出促進実績

区分	貴社・団体	ふじのくに森の町内会 全体（77社）
「間伐に寄与する紙」 の使用量（kg）	今回 93.750kg	415,461.408kg
	計 1,578.125kg	
間伐材（未利用木材） の搬出促進実績（m <sup>2</sup> ）	今回 0.234m <sup>3</sup>	1,038.654m <sup>3</sup>
	計 3.945m <sup>3</sup>	

※現在、「ふじのくに森の町内会」に参加していただいている企業等は77社です。

ふじのくに森の町内会「間伐に寄与する紙」の使用を通じて  
静岡県の豊かな森林を未来につなぐために貢献したことを証明します。

納入日	印刷物	用紙重量（kg）
前回までの実績	平成28年3月まで	1,484.375
平成28年4月25日	鈴与コンストラクション ホールディングスグループ誌	93.750

・「間伐に寄与する紙」は森づくりに貢献します。

企業の皆様にご支援いただいた「間伐に寄与する紙」の未利用材活用促進費は、静岡県内の適切な森林管理が行われている森林認証取得森林の間伐材の有効活用に使われます。間伐材を森林から搬出し、製紙工場で紙資源として再生されます。

・用紙と間伐材（未利用木材）の関係

「間伐に寄与する紙」は、ふじのくに森の町内会指定の間伐材チップ用原木（絶乾ベース重量）1に対して、紙（製品重量）1の比率で製品化するクレジット方式を採用しています。



静岡県知事 川勝平太



## ボランティア活動

### 三保松原

【富士山世界文化遺産構成資産登録】

清掃活動の参加状況



清掃活動の状況

### 興津川の河口

駿河湾に注ぐ二級水系

清掃活動の状況

